



各 位

平成 21 年 5 月 8 日

会 社 名 株式会社 ニッピ
 代表者名 代表取締役社長 伊藤隆男
 (JASDAQ・コード7932)
 問合せ先
 役職・氏名 総務担当取締役 吉原道博
 電話 03-3888-6651

特別損失の発生ならびに業績予想の修正に関するお知らせ

当社におきまして、下記のとおり特別損失が発生する見込みとなりましたのでお知らせするとともに、平成 20 年 10 月 30 日に公表いたしました平成 21 年 3 月期（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）の通期の業績予想を修正いたしますので、併せてお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上とその内容（連結および個別）

(1) 有価証券評価損

平成 21 年 3 月 31 日付「平成 21 年 3 月期末の有価証券評価損に関するお知らせ」にてお知らせしましたとおり、平成 21 年 3 月期末において「その他有価証券」に区分される保有有価証券のうち、時価が著しく下落し、その回復が認められないものについて、減損処理による有価証券評価損 178 百万円を特別損失に計上する見込みであります。

(2) 役員退職特別功労金

平成 21 年 5 月 8 日開催の取締役会において、平成 21 年 1 月 4 日逝去しました故代表取締役相談役に対し、その 34 年有余の取締役在任中の功労に報いるため、役員退職特別功労金を支給することを決議しましたので、特別功労金 150 百万円を特別損失に計上する見込みであります。

なお、支給については平成 21 年 6 月下旬開催予定の定時株主総会での決議事項となります。

(3) 開発関連費用（追加）

当社は現在、開発事業として、道路整備等の基盤整備ならびにこれに伴う建物集約、地中基礎撤去・土壌浄化工事等に着手しております。対策工事の進捗に伴い、平成 20 年 10 月 30 日付「特別損失の発生ならびに業績予想の修正に関するお知らせ」にてお知らせしました土壌対策費用（地中基礎撤去・土壌浄化工事）見込約 450 百万円に対し、約 120 百万円の追加費用の発生が見込まれることになりました。従いまして、本費用として併せて約 570 百万円を特別損失に計上する見込みであります。

2. 個別業績予想数値の修正

(1) 平成 21 年 3 月期通期（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想 (A)	24,400	1,100	700	150	12 53
今回修正予想 (B)	23,162	903	601	△538	△45 01
増減額 (B-A)	△1,238	△197	△99	△688	△57 54
増減率 (%)	△5.1	△17.9	△14.1	—	—
(参考) 前期実績(平成 20 年 3 月期)	24,378	842	522	935	78 17

(2) 通期業績予想数値修正の理由

売上高にしましては、健康食品用ゼラチンが好調に推移したものの、皮革事業部における車両用革の売上が自動車業界全般の減産傾向の影響を大きく受け、前回予想を若干下回る見込みであります。

営業利益および経常利益にしましては、主力製品であるコラーゲン・ケーシングの輸出が、円高傾向による影響を大きく受け、前回予想を下回る見込みであります。

当期純利益にしましては、上記 1. に記載のとおり、特別損失の発生と同時に税金費用を見直した結果、前回予想を下回る見込みであります。

3. 連結業績予想数値の修正

(1) 通期（平成20年4月1日～平成21年3月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想 (A)	39,700	1,800	1,100	300	26 53
今回修正予想 (B)	38,511	1,562	1,108	△426	△37 75
増減額 (B-A)	△1,189	△238	8	△726	△64 28
増減率 (%)	△3.0	△13.2	0.7	—	—
(参考) 前期実績(平成20年3月期)	39,799	1,468	1,115	1,174	103 90

(2) 通期業績予想数値修正の理由

売上高にしましては、健康食品用ゼラチンが好調に推移したものの、皮革関連事業における車両用革の売上が自動車業界全般の減産傾向の影響を大きく受け、前回予想を若干下回る見込みであります。

営業利益にしましては、主力製品であるコラーゲン・ケーシングの輸出が、円高傾向による影響を大きく受け、前回予想を下回る見込みであります。

経常利益にしましては、営業利益が前回予想を下回ったものの、外貨建て期末債権債務の為替評価益が予想を上回ったことと、持分法による投資損益が改善されたことにより、前回予想通りになる見込みであります。

当期純利益にしましては、上記1. に記載のとおり、特別損失の発生と同時に税金費用を見直した結果、前回予想を下回る見込みであります。

* 上記の予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものでありますので、実際の業績は今後さまざまな要因によって、上記予想値と異なる可能性があります。

以上